



哈瑪星



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_south/617/



エリア

高雄市

テーマ

歴史

建築

産業

交通

食文化

哈瑪星

都市高雄の出発点、 日本人が住んだ街

高雄の地下鉄は「捷運(ジエユン)」や「MRT」と呼び、南北に走る「紅線(レッドライン)」と、東西に走る「橘線(オレンジライン)」が十字形に交差します。橘線の西側、塩埕埔駅から西子湾駅にかけては、戦前まで高雄の中心地でした。古くは台北へと向かう鉄道の駅があり、日本人もたくさん住んでいました。特に西子湾駅周辺は、港に線路が走っていたため、「浜線(はません)」と呼ばれました。現在はその音に漢字を当てて、「哈瑪星(ハマシン)」といます。世界的港湾都市となった高雄の出発点は、ここ哈瑪星です。

学びのポイント

1.

日本人が造った近代都市、高雄

高雄の市街地の中心は、現在では高雄駅の南側、二本の地下鉄が接続し、ステンドグラスが美しい美麗島駅や、さらにその南の、高層の高雄85ビルがそびえる三多商圈駅周辺です。広い道路が基盤目状に走るので、札幌を連想する人がいるかもしれませんが、気候は全く異なりますが、近代以降に大規模な都市設計がされた点で、二つの都市は重なる点があります。

2.

「哈瑪星(ハマシン)」を歩いてみると

日本統治期に日本人居住区として形成された哈瑪星(ハマシン)には、歴史的建造物が多く残っています。北の寿山のふもとに、「武徳殿」という武道館があり、東側には、かつての高雄港駅を利用した「旧打狗駅故事館」があります。哈瑪星を歩くと、それ以外にも日本家屋が残り、中には改装されてカフェなどとして生まれ変わった姿を見ることができます。南の海沿いには、高雄港の対岸、旗津半島へ向かうフェリー乗り場があり、近くのかき氷屋はいつもにぎわっています。

3.

高雄のかつての中心地

哈瑪星(ハマシン)の東側、北から南へ流れる愛河に沿った塩埕埔という地域は、哈瑪星とともに、戦前まで高雄の中心地でした。戦前の高雄市役所の建物は、現在高雄市立歴史博物館となっています。南の埠頭側に位置する、「駁二(ポーアール)芸術特区」は、港の倉庫群をリノベした、アートやカルチャーの発信基地です。カフェやショップなど、おしゃれな店があり、散策するだけでも楽しめます。西側の倉庫は、鉄道ジオラマを展示した「哈瑪星台湾鉄道館」です。高雄ライトレール(「高雄捷運軽軌」)も走るこの一帯は、鉄道好きにはたまらない空間です。